

広がるデザイン フィールド

JAGDA 入会

日常はデザインに
溢れている

グラフィックデザインと聞いて皆さんはピンとくるでしょうか。「そういうことは、自分とは関係が無い」と思う方が大多数かもしれませんね。でも、暮らしの中には数え切れない程のグラフィックデザインが溢れています。

様々な製品に表示されている商品や企業のマーク、本や雑誌、様々な広告、TVC CMや番組ロゴ、お財布の中にあるカードや母子手帳に至るまで、実はあらゆるものにグラフィックデザインが施されています。グラフィックデザイナーの仕事は時代や社会、ニーズを読み解いてヴィジュアルイメージをつくりだすこと。近年、そのフィールドは工業デザインや建築、行政や街づくり等、モ

ノづくりから、コトづくりへと広がっています。

JAGDA に入会

日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)は、そうしたグラフィックデザイナーの全国組織です。そこには日本のデザイン界を牽引するデザイナーが名を連ねてきました。東京オリンピック公式ポスターやNTTのマークを手がけた亀倉雄策。無印良品のトータルデザインを手がけた田中一光。東京電力やUFJグループ、茨城県のマークを手がけた永井一正。愛知万博のプロモーションを手がけた原研哉。ロッテやエスビー等の食品パッケージやNHK「にほんごであそぼ」のプロモーションを手がける佐藤卓。TUTAYAのマークやユニクロのグローバルプロモーションを手がける佐藤可士和。デザインに携わる私たちにとっては名前を聞いていただけでドキドキしてしまう人たちが、いずれも社会や企業と人々を結ぶヴィジュアル・コミュニケー

ションの名医です。デザイナーの名は知らなくても、手がけた仕事は馴染み深いものばかりではないでしょうか。そのJAGDAに弊社の佐藤正和が入会しました。

地方だからできること

JAGDAに入会したことで大きく仕事が変わるわけはありません。むしろ「シンク・グローバル アクト・ローカル」。行方市麻生商工会の地ブランドプロジェクトのように、地方の優れたもの、埋もれているものを地域の独自性のある付加価値として磨いていく仕事を目標としています。

その一方で、第一線で活躍するデザイナーとの接点は、これまでとは違う仕事のフィールドを生んでくれそうです。私たちはワクワクしています。



行方市麻生商工会のプロジェクトでは、全国的なフードフェアへの出品に向けた商品パッケージのデザインに携わっています。

トヨタの次世代コンパクトカー

iQ

デビューと同時に
ネットトヨタ茨城でリーフレットをリリース

新しいコンセプトで開発されたトヨタの次世代コンパクトカー「iQ」。グッドデザイン大賞に選ばれるなど、さまざまな媒体で紹介されています。弊社ではネットトヨタ茨城で使用されるセールスプロモーション用のリーフレットを制作しました。この小さくてエレガントなクルマの売れ行きも気になります。

